

今日も「丁あがり」

第17話
ソバの早刈りで摩耗したコンバインの
脱穀部の補強板キットを製作せよ！の巻



皆さん、こんにちは！ 美味しい料理に言葉を失うほど深く感動しているロボストス高垣でございます。近所にすぐく丁寧に作ってくれる美味しいうなぎ屋さんがありまして、日曜日にそちらの「うなぎ」を食べるのが僕の数少ない息抜きなんです。その店のうなぎを食べるとめちゃくちゃ元気になれるんですよ！皆さんにも行きつけのお店があると思います。心底美味しいと思わせてくれる料理屋さんって最高ですね。農家さんが丹念に育てた食材に漁師さんの獲れたての食材、それらを



写真1：ソバが育つ赤城山麓の風景



写真2：ボロボロに穴の開いたコンバイン(中セキHC380)の脱穀部

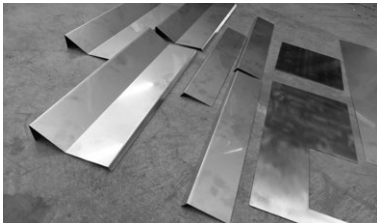


写真3：脱穀部の形状に合わせて製作した補強板キット。現場で組み付けやすいようにオートポンチも一緒に納品



写真4：脱穀部を見つめるT井社長



写真5：ピッタリ補修が完了した脱穀部

こだわりの仕込みで仕上げられた料理……。ああ、よだれがこぼれてしまいました(笑)。というわけで、今回は全国の名だたる蕎麦屋さんにはそば粉を提供しているソバ專業農家のお手伝いをしてみましょう。

溶接しづらい箇所の補修はビス止めを選ぶのも吉

群馬県にてのべ200haの二期作でソバを生産、品質の高さから農林水産大臣賞の受賞歴を持つA山ファームのT井社長。厳しさは感じると威圧感を与えないニコニコし

た親父は、蕎麦店経営の経験から理想とするそば粉を求めて、全工程でソバがフレッシュであることを重視されています。収穫においても、茎が青い内に早刈りするんですね。茎は若く水分を多く含む上に、簡単には脱粒してくれないため、コンバインのこぎ胴を高速回転で回す必要があります。そんな使い方を繰り返していると、脱穀部が磨耗して大きく穴が開くんですね。だから全面補強できないかというのが今回の依頼です。5台あるコンバインを移動させるのは大きな負担ですよ。さらに実



高垣達郎(たかがき・たつろう)
1984年アメリカ生まれ、東京都大田区の町工場街で育つ。2011年に株式会社ロボストスを創業し、農林水産業機械のワンオフ対応を軸に、独自のサービスを構築。A-1グランプリ2011グランプリを受賞。群馬県を拠点に、機械メーカー・ディーラー・農協・農業生産法人など、全国的に取引を拡大している。株式会社ロボストス代表取締役社長。

機を確認すると、溶接での全面補強は得策ではない……。それなら、補強板キットを製作して、現場で組み付けることにしました。

まず、水気や耐摩耗性を考慮して選択したのは、鉄ではなくステンレス板。そこで、頭を悩ませたのはステンレス板の板厚とドリルビスの大きさです。ドリル径4mmのドリルビスが貫通できるのはメーカー値で板厚2.3mmが限界。耐久性を考えれば2mmくらいは欲しいけど、硬くてドリルビスが折れてしまうことも……。不安定な姿勢での作業を考慮して、1mm厚、1.5mm厚と試してみても、1.5mm厚の板に決定！ 曲げ角度などの寸法をバッチリ合わせて、5台分の補強板キットを製作して発送しました。

取り立てて注目することもないちょっとしたモノづくりでも、現場での作業性や使用条件を踏まえて企画し、かつ工程をシンプルにすることを極めるのが僕の仕事です。T井社長が納入先の蕎麦屋のお客さんが喜ぶ顔をイメージしてそば粉を作るように、近所のうなぎ屋の親父が今日も丁寧な仕事を続けているように、僕もお客様に喜んでもらえる仕事を追求してまいります。出合いに感謝して来月も頑張ろう！ ということで、今日も「丁あがり」